

YWVOB会 会報 No.50

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

会報50号記念特集

<http://ywvob.com/>

2012年4月1日発行

～ 50号の目次 ～

- ・写真で見るワングル今昔 その1 1
(会報 50号記念特集)
- ・OB 会長ご挨拶 2
- ・会報の歴史を振り返って 3
(会報 50号記念特集)
- ・自由投稿 超短編小説 ある編集長の朝 8
- ・第1回 OB 会役員会報告 10
- ・第33回 OB 山行 (三頭山) 報告 11
- ・第34回 OB 山行 (両神山) 案内 12
- ・2011年シニア OB 月例会報告 13
- ・苗名小屋便り 16
- ・期別便り (21期) 17
- ・現役部員の活動紹介 18
- ・写真で見るワングル今昔 その2 19
(会報 50号記念特集)
- ・編集委員会から 19

■ 会報 50号記念特集 写真で見るワングル今昔 その1

◇◇◇◇ 1960年代～1990年代 ◇◇◇◇



(左から) 嘉納(1), 時田(5), 諸節(3), 石田(3), 江崎(3), 岩上(2), 宮崎(2), 蜜島(6)



(左から) 岡村(7), 井上(3), 古荘(6), 蜜島(6)





■ OB会長ご挨拶

会長 鈴木 (9期)

創部 55 周年を迎える今年、会報 50 号を発行することができたのは実に嬉しい出来事であります。

人類は文字という素晴らしい発明をし、パピルス、紙材料、木簡、粘土板、洞窟等の壁への描き込み、石材等への彫り込み、そしてグーテンベルグの印刷機発明により大量に短時間で、詩文や記録や聖書などを、人類が創り上げてきた文化の形：文書や記録を後世に引き継いできています。

ところが近時 IT が発達し、詩文・小説等も iPad や Smart Phone で読むことができるようになり、紙離れが特に若い世代に多くみられると聞きます。我々 OB&OG 年代は小説などを何回も読み直し、下線を引き、メモを書き加えるなど独自のスタイルで楽しんできています。一方で我々はメルマガや HP など別の目的をもってその手段を併用しながら多くの情報を会員に提供し、ワングル仲間の絆を確保するために活用をしてきています。しかしながら会報という紙資料の温かみのある古典的な記録媒体を大切に、それらを将来に亘って継続して行くことは意義深いものと考えます。

OB 会報編集に過去携わった方々の座談会をこの度開催し、この 50 号発行に至るまで 2 回ほど空白期間があった経緯や裏話を回想し、今後もその挫折した原因を取り除きながら、ワングル部、OB 会が存続する限り、「永遠に会報を発行して行こう」と決意を新たに致しました。皆様もこの会報をこよなく愛し応援をして頂きたいと思ひます。

■ 会報 50 号記念特集 「会報の歴史を振り返って」

編集委員会 編

その1 座談会「会報の歴史はOB会活動の歴史」

2012年2月25日 横浜国大キャンパスにほど近い某所にOB会報関係者が集まり、会報の歴史を語り始めました。参加したのは下記の方々と、若干(?)年齢が高めに偏っている気もしますが、皆さん気持ちはとても若く、昔の話を熱く語ったのでした。

嘉納 (1)、吉野 (2)、松本 (8)、鈴木 (9)、下村 (10)、笛木 (19)、石垣 (20)、山崎 (22)



【 黎明期 会報0号～10号 】

- ・最初は松本さん (1) と嘉納さん (1) が相談して零号を出した (注: OB会発足の翌年1962年発行)。総会での正式な承認はされていないので零号とした。編集後記に書いてあるけどね。
- ・最初で既にタイプ印刷というのはすごい。
- ・黄金町のガード下にあったタイプ屋さんでね。機関誌のスカイラインの印刷に学生時代からすでに利用していたので。
- ・10号までは現在のシニアメンバーが担当し、年2回のペースで順調に発行していた。
- ・この辺りの会報は、皆さん若々しく活気に溢れているね。その後は生活に忙しくて途切れてしまったけれど……。1968年の安保闘争も大いに影響しているだろうね。
- ・ちょうどその頃9期の執行部の分裂 (山派と里派) もあった。また、大学の封鎖とかもあった。
- ・事務局が一時つぶれた時期もあった。OB会活動も止まった。



号	発行年月日
0号	1962.09.20
1号	1963.10.30
2号	1964.09.30
3号	1965.05.01
4号	1965.10.20
5号	1966.03.01
6号	1966.11.01
7号	1967.08.01
8号	1967.11.23
9号	1968.07.15
10号	1968.12.01
11号	1973.6.30以降
12号	1974頃
13号	1975.12.01
14号	1976.12.01
15号	1977.06.18
16号	1999.12.05
17号	2000.08.06
18号	2000.12.16
19号	2001.09.08
20号	2002.06.30
21号	2002.09.07
22号	2002.12.15
23号	2003.03.30
24号	2003.08.23
25号	2003.12.13
26号	2004.04.18
27号	2004.09.12
28号	2005.02.20
29号	2005.07.15
30号	2005.09.10
31号	2005.12.23
32号	2006.04.01
33号	2006.09.01
34号	2006.12.25
35号	2007.03.20
36号	2007.08.31
37号	2008.01.15
38号	2008.04.01
39号	2008.09.01
40号	2008.12.27
41号	2009.04.01
42号	2009.09.01
43号	2009.12.26
44号	2010.04.07
45号	2010.09.01
46号	2010.12.27
47号	2011.04.01
48号	2011.09.06
49号	2011.12.30
50号	2012.04.01

・・・(1968年12月～1973年6月 第1次空白期間 約5年間)・・・

【 第1回復刊期 会報11号～15号 】

- ・そして、5年後に復活。編集長の居ない時もある、11号、12号は発行年月日がはっきりしない。
- ・13～15号も編集長は不明。更に15号は全て手書きだった。
- ・手書きはやむにやまれず出した感じだ。みんなに知らせる必要があった。
- ・遭難事故だね。OB会を起こさないといけない時期だった。
- ・1976年のことだね。その年は遭難が続いた。
- ・15号は創部20周年のお知らせをしているし、創部20周年記念パーティー、スカイライン20周年記念号、会則改正など重要事項が沢山載っている。
- ・しかし、その後の22年間は途切れてしまった。(1977年～1999年)
- ・その間もOB通信なるものは出ていたんだけど、もっとあるはずだが部室に残っていない。しかし、OB総会はやっていた。

・・・(1977年6月～1999年12月 第2次空白期間 約22年間)・・・

【 第2回復刊期 16号～30号 】

- ・会報の歴史を見ると実におもしろい。特に16号の復活はすごいね。
- ・22年後に田村さん(34)が復活させた(注:1999年12月発行)。OB会をなんとかしようとして活動を始めた人達が出たんだ。当時の功労者がここに出席していないのは残念だね。
- ・16号の編集後記にもその思い出がとて入っている。30期から34期にかけての人達が頑張ってくれたんだ。
- ・最初は年1回だった。
- ・OB会報とOB会活動は一体化したものと考えべきだ。組織ができないと会報は出せない。反対に会報が出せないと組織が衰えていることになる。つまり、会報は組織の盛衰を表しているんだね。
- ・OB会の再建も含めて、16号から現在の形になった。OB会の復活があって、小屋もリニューアルできた。
- ・16号からは途中行き詰った時もあったが、どうにか交代しながらやってきた。
- ・田村さん(34)が専担になって、その後下村さん(10)が引き継いで落ち着いた。今は年3回必ず発行している。
- ・そういう意味では田村さん(34)前後の期の人達は若い頃から関わっていてすごいね。



【 発展期 31号～現在 】

- ・(下村さんの編集委員長時代の感想は、との問いに)飲み会の席上でよく分かりもせずに編集委員長を引き受けたが、やってみて感じたのは、ワングルは奥が深いということ。人間としてすごい人達の集まりだと思った。色々なことをやっている人が多く、多様性がある。現役の人達にもこの思いを伝えたくて現役のページを設けた。意識的に繋げていかないと若い人達に引き

継がれない。

- ・仕事が忙しい時期は無理があるが、仕事も落ち着いてくる 50 代前後になると、また昔の仲間と会う機会が増えてくる。
- ・情熱を持っている若い人を役員会に引き込むのも大切だけど、私生活も大事にさせてあげたいね。無理をさせてはいけない。
- ・でも会報が出れば、私生活が忙しくても自然と繋がりは保たれるしね。
- ・今は PC 力も必要な時代だよ。
- ・一般的には年 3 回はすごいことだよ。他のクラブの人に言うとびっくりするね。
- ・予算的には年 3 回は可能だけどね。
- ・今はホームページ、メルマガと他の方法も使っているけど、それぞれの役割分担がある。ホームページは内容も豊富でリアルタイムではあるが、紙資料は寿命が長い。また、会報を送る時に会費の振込用紙も送ることができる。
- ・会費の未納者リストを載せたときは注目されたね。効果もあったよ。
- ・尋ね人もそういう意味では名簿の整理に少しは役立ったけれど、あまり見つからなかった。
- ・個人名が載るとみんなの意識が向くね。それで、創部 50 周年記念行事にも繋がっていった。
- ・創部 50 周年パーティーで初めて OB 会に顔を出した人もいるし。その次の山小屋の 40 周年も盛り上がったしね。
- ・記念誌（注：創部 50 周年記念誌「YWW50 年の歩み」）を作ったのもよかった。他の大学からも絶賛された。国会図書館にも寄贈した。
- ・あの時、全部の期が原稿を寄せてくれた。呼びかければみんなが応えてくれるところはワングルのいい所。
- ・期別便りは非常に早くから取り組んでいるね。
- ・昔の会報は構成員も若かったし、結婚・出産のニュースなどとてもアットホームな内容だったね。今は、大所帯でとても無理だけど。
- ・スカイラインは現役の発行で今はないけれど、全部デジタル化されている。会報も零号からやはり全てデジタル化されているのでいつでもホームページで読める。
- ・世代間の違いはあっても、どんどん次の世代に引き継いでいかないといけない。
- ・写真でも文章でも沢山の人のものを載せると、特に自分の知っている人がいると読んでくれる。フルネームで載せる良さが会報にはあるね。セキュリティも大切だけど会報は限定配布だからフルネームで載せることができる。
- ・ところで、今日はもっと歴代の編集長に集まって欲しかったよね。



.....

話が盛り上がり、皆さんの思い・情熱が際限なく噴き出して来ましたが、收拾がつかなくなったのでこの辺でお開きにさせていただきます。皆さん、ありがとうございました。

（编者より）

座談会形式でスタートし、最後にはブレインストーミング形式、いや、言いたいことを言いたいだけ言う形式になってしまいました。これは、参加された方々の若さの表れだと思います。尚、座談会の内容は整理・編集しておりますので、実際とは発言順が異なっていたり、実際の発言とは多少異なった表現となっている等が

りますことをご容赦下さい。

最後に、皆さんが大いにお話しされたことを丁寧に記録して頂いた笛木さん（19）、本当にありがとうございました。

その2 インタビュー「こだわり」

座談会に参加された方々からの強いご要望で、第16号からの第2回復刊期に多大な貢献をされた田村さん（34）に紙面に登場してもらいましょう。



——会報の復刊にはどんなことに気を使いましたか。

全体として、私が編集者として意を砕いたことは、どうしても文章が多くなり、「重たい」感じになってしまうのを、どうやって「軽く」「パッと見で読む気になってもらう」体裁にしていくか、という部分でした。もちろん構成も毎号企画していましたが、同好会の会報としては「オーソドックス」な内容だったかと思います。

——第16号の復刊にあたり編集でこだわったことはどんなところですか。

まず第16号復刊にあたり、配慮したのは題字の部分でした。第15号の続きである以上、継続性を何らかの形で明らかにしておきたいと思い、題字部分についてはフォントも含めてあえて復古調としました。

内容的には、第16号については総会後のタイミングということで、総会報告が多くを占めていますが、その後の定番となる期別便りや現役報告といった記事はすでに復刊号には含まれていました。

会報の見た目の印象を左右する、章見出しの「灰色網掛け・白抜き」のスタイルですが、当時、わたしが職場（国交省）で報告書を作成するとき多用していたものを、そのまま流用しています。このスタイルは、手軽に「垢抜けた」感じを出すことができるので好んでいたのですが、会報題字のレトロ調との相性は？だったかもしれませんね。（次ページに続く）

■ 懐かしの白黒写真館 ■



（左から）倉田(2)、岩村(2)、嘉納(1)、柴田先生、吉野(2)、渡辺(2)、斉藤大(3)



この【懐かしの白黒写真館】は白黒写真を中心に6ページから9ページまでページの下半分を使ってお届けしています。若かりし昔を思い出して下さい。

ちなみに、第17号から第21号までは、藤井さん、後藤くんが編集担当でしたが、その時の網掛けの色が「黒」で、このスタイルにこだわりを持つ私としては、「ここは黒じゃなくて灰色なんだけどなあ」と、ひとり会報を見るたびに心で呟いていました。再び編集を担当した第22号からは、また網掛けがしっかり「灰色」に戻っています。ぜひご確認下さい(笑)。

——フォントや裏表紙にも何かこだわりはありますか。

第22号以降、私の担当する号はどんなに原稿が沢山あっても、最終ページ(裏表紙)だけは、奥付と写真一葉だけを載せるようにしました。これも、文字ばかりの「重たい印象」となるのを避けて、読者に読んでもらうために、「空白を意識的に使う」手法を導入したものです。また、第24号からは、英数字字体として「Century Gothic」を使い始めました。「Century Gothic」は、本文で日本語と混ぜて用いるには一般的ではない字体ですが、見た目の軽快さと端正な明朝体との意外な相性の良さが気に入って、使い始めたものです。こういったスタイルが今に至っても、基本的に引き継がれていることはまったく予想しないことでしたが、うれしい限りです。

.....

(编者からもう一言)

期別便りや現役報告、見出しの「灰色」、フォントの「明朝とCentury Gothic」、裏表紙の「写真1枚と奥付のみ」、など沢山のことがこの第50号にも脈々と引き継がれています。第16号はもはや復刊というよりも第二の創刊号ですね。また、編集者の心構えなどとても参考になりました。田村さん、ありがとうございました。



(左から) 永見(部外)、郡司(4)、谷上(4)、織田(4)、吉野(2)



(左から) 井上(3)、時田(5)、郡司(4)、江崎(3)、白井(3)、諸節(3)、米屋(2)、吉野(2)、所(5)、嘉納(1)、宮崎(2)、藤林(2)



(左から) 宮崎(2)、時田(5)、郡司(4)、嘉納(1)、藤林(2)、米屋(2)、江崎(3)、所(5)、吉野(2)

自由投稿 超短編小説「ある編集長の朝」

石垣 (20期)

朝、部屋の中を漂う3Dタイムキーパーが近づいて来て、ベッドの中にいる編集長の頭にそっと触れた。

ああ、朝か。

眠い目を開けて3Dタイムキーパーを見ると、【2062年3月11日 土曜日】の文字。編集長は呟いた。

そろそろ会報200号の編集をしなければいけないなあ……。でも、その前にまずは朝食だ。

今朝はオールドファッションの「ご飯と豆腐のみそ汁」にしよう、と思った瞬間、編集長の目の前に3Dの朝食映像が現れた。それを見ながら永谷園の「あさげ」サプリメントを口の中に入れ、「もう3年も本物のみそ汁を飲んでいないなあ。そうだ、明日の日曜日はマーケットに行つて久々に本物を買おう」と、編集長は思ったのであった。

朝食も終わり、編集長は居間のソファーに座り、空間に向かいブツブツ呟き始めた。

「会長のご挨拶」原稿は60期の会長から既に来ているので、3D映像をここに埋め込んで……。第200号特集の映像「スペース苗名」はどこに行ったのかなあ。おお、あった、あった。ところで、宇宙小屋ステーション「スペース苗名」はどこまで出来ているんだろうか。ちょっと見せてくれ(と、R2D2に命令した)。
(次ページに続く)



(左から) 八島(7)、蜜島(6)、白神(7)、井上(3)、下村(7)、
佐々木(7)、中島(7)、菅谷(6)、谷上(4)、亀井(5)、嘉納(1)、斉藤彦(2)、吉野(2)、跡部(4)、
岡村(7)、羽島(5)、郡可(4)、牧原(4)、塚原(2)、井田(3)、宮崎(2)。



(左から) 水見(部外)、谷上(4)、蜜島(6)、菅谷(6)、鈴木(8)、
高橋(8)、東田(6)、江崎(3)、宮崎(2)、米屋(2)、跡部(4)、溝田(5)、
金田(3)、郡可(4)、嘉納(1)、佐木(8)、井田(3)、
松本(1)、
特別顧問: 遠田町長、顧問: 竹田社長、岡田哲也、田中部長。

すると、目の前に建設中のスペース苗名が現れた。丁度 62 期の OB 小屋委員長が宇宙空間を漂いながら、外部観察装置（昔は「窓」と言った）を取り付けているところだった。編集長は目の前の R2D2 に向かって「OB 小屋委員長」と呟き、OB 小屋委員長との接続を待つて話を始めた。

「建設は順調ですか？」「順調に行っているよ。ところで、スペーススノーって知っているかい。宇宙空間の微細なゴミだよ。今年はスペーススノーが多くて、ステーションの回りにいっぱい積もっているの、
「雪下ろし」がまた必要だな」「今、会報の編集集中ですので、「雪下ろし」隊の募集記事を載せておきますよ」「宜しく頼むよ、ありがとう」

また、編集長は R2D2 に向かって呟き始めた。

さて、次は役員会報告だ。原稿は・・・おお、来ている、来ている。70 期の幹事長はいつも締切を守ってくれてありがたいね。ところで、総務委員長の横溝さんは 21 期で 100 歳もとっくに越えているのに元気だなあ。悩みが無いのが長生きの秘訣かなあ。・・・詰まらないことを考えないで、編集作業を進めなくては。

またまた、編集長は呟いた。

次の記事はえーっと。OB 山行か。今回は八ヶ岳。案内記事にいつものような 3D 映像を埋め込むだけでは、面白く無いなあ。何かインパクトのある映像が無いかなあ。・・・・・・ 八ヶ岳が富士山のような単独峰だったら、裾野の規模から計算すると 4000m 級の山になったはずだな。そうだ、4000m 級の八ヶ岳のリアルな映像を作って記事に埋め込んでみることにしよう。

編集長は R2D2 の頭部に手を触れて「八ヶ岳、単独峰！」と念じると、巨大な単独峰の八ヶ岳が出現した。

何かもっとインパクトが欲しいな。そうだ、噴火させて山の形成時を再現してみよう。・・・おお！なかなかの迫力。これはいい映像だ。さらに近づいて、いいぞ、そのまま火口に入ってみよう。おお、熱くなってきた。熱さもリアルだなあ。最近の映像再現装置は凄いなあ。あれ、どんどん溶岩炎に近づいている。熱い、熱い、熱い・・・。止まらないぞ。あれ、あれ、あ、そうだ、再現装置の安全スイッチを入れるのを忘れた。スイッチはどこだ。ああ、熱い、体が燃える、体が焼ける・・・・・・。誰かー 誰か、助けてくれー・・・・・・。

そこで、編集長は目が覚めた。何だ、夢だったのか。部屋の壁に掛けてあるカレンダーを見ると、

【2012年3月10日 土曜日】の文字。 ああ、会報 50 号の編集作業をしなくては・・・。 (完)

.....

OB 会活動が未永く続き、OB 会報が 100 号、200 号と続いていくことを祈念して筆を置きたいと思います。尚、この小説はフィクションであり、登場する人物が実在する人物と酷似していることもあります。実在する人物とは全く関係ありません。



■ 第1回 OB役員会報告（1月28日）

幹事長 西田（20期）

2012年1月28日（土）14:00から川崎市「てくのかわさき」にて第1回役員会が開催された。

【出席】 嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、榎本(12)、白須(17)、植草(18)、堀内(18)、山口(18)、
 笛木(19)、石垣(20)、西田(20)、武藤(20)、横溝(21)、山崎(22)、笹倉(30)、小野(34)、親跡(34)
 <現役> 佐藤(53)、谷口(54)、軍司(54) 以上21人

【内容】

各委員会報告

①総務（武藤副委員長）：

- ・ 総会時に実施したアンケート（27件）を項目ごとに討議し、OB会活動充実のために活用していく。
- ・ メルマガ編集担当を輪番制にする（2月：白須、3月：白木、4月：山崎、5月：茂呂）。

②山小屋（笹倉委員）：

- ・ 今年は積雪多く（3.5m+）、体制要検討。現役も参加している。
- ・ 除雪方法について委員会で検討し次回討議（現状8人）

③編集（石垣委員長）：

- ・ (決議事項) 会報50号の臨時費用15万円を特別準備金で充当⇒現役の同意を要請した。

④山行（山口委員長、小野副委員長）：

- ・ 1月の三頭山実施報告
- ・ 5月12日 両神山計画説明（30人入山規制あり。20人で申し込む）

⑤ホームページ（吉村委員長）：

- ・ 山小屋の積雪状況をHPでアップ（積雪グラフ、気温）

⑥部史編纂（嘉納委員長、笛木委員）：

- ・ 写真データ、フォルダの整理など内容確認含め各期で整理していく必要あり。その後、公開方法やメンテ方法、管理プログラムの選択などを進める。

⑦会計（吉野幹事）：

- ・ 会費徴収はおおむね終了（一般寄付3万円、小屋寄付7万円）⇒要寄付促進。

⑧現役からの報告：

- ・ 大学からの活動費（年5万円）は入手困難な見通したが、状況確認のうへOB会への支援要請含めて現役で検討する。
- ・ 1月12日～14日 山小屋スキー合宿（6人）。新主将は54期・齊藤さん。現在、春合宿、部史対応検討中。

⑨次世代OB会、今後のOB活動：

- ・ シニアOB会は1999年以来、月例山行140回（平均33人）
- ・ 特別会員中心に次世代シニアOB会準備中。

⑩東北復興関連：

- ・ 日赤寄付3,465億円のうち、YWW100万円
- ・ 神奈川新聞など共催で東北3県小中学生を神奈川県に修学旅行で呼ぶ「輝望PJ」があり、このための費用支援（個人5,250円、団体105,000円）の紹介、提案（武藤さん）。

（決議事項）⇒OB会としての団体寄付は活動主旨に合わないので実施しない。ただし、主旨には賛同できるのでHP、メルマガで個人寄付の紹介を行う。

次回役員会予定： 2012年4月21日（土）14:00～

場所： てくのかわさき（武蔵溝ノ口） 1F 第一研修室にて

以上

■ 第33回OB山行（三頭山）報告

OB山行副委員長 小野（34期）

〔日程〕 2012年1月14日（土）

〔参加者〕 嘉納(1)、吉野(2)、谷上(4)、細田(7)、佐木、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、小浜、白須、渡邊(17)、山口、堀内(18)、笛木(19)、武藤(20)、親跡、小野(34)

計18名

関東では記録的に雨が降らず冬晴れの続く1月のとある土曜日、奥多摩三山の一つ三頭山に登ってきました。登山口の都民の森は、売店もある立派な駐車場。今回もドタキャンありドタ参あり、乗り合わせ場所を間違えてなかなか出会えなかったマイカー組もありましたが、いつも元気な皆さん、18名が集合しました。細田さんがOB山行初参加。この日も爽やかな晴天で、絶好の冬山ハイク日和。早速開会式の後、10時過ぎに歩き出しました。ここ数年、冬のOB山行は期せずして雪の上を歩くことが多かったのですが、今回はほとんど雪は無し。代わりに素晴らしい自然のプレゼントがありました。歩き始めて約30分のところにある三頭大滝（落差約33m）が全面凍っていて、美しい姿を見せてくれたのです。展望用の滝見橋から一同感嘆の声を上げ、しばし見入りました。そこからの登山道も、沢の水がところどころ凍って小さな氷の芸術があちこちに見られ、飽きることなく歩けました。尾根に出ると、少し雲をまとった富士山の雄姿も。何とも目を楽しませてくれる山行です。ちょうどお昼に山頂に到着。奥多摩の山々と奥多摩湖も眺めることができました。お楽しみのお昼ご飯の後、恒例の谷上カメラマンによる集合写真撮影。山本さんから、「山頂なのに三頭（未踏）山」との名言（親父ギャグ？）が飛び出して大笑い。残り2つの小さなピークを踏みながら（だから三つの頭なんですね）、下山へ。途中、展望台や見晴らし小屋があり、しっかり整備されたコースです。しかし、乾燥していて歩いたびに砂埃が上がるのには閉口しました。都民の森の施設、森林館では木工センターを見学し、ゆっくりお茶飲み休憩をしてから駐車場に戻りました。閉会式の後、武蔵五日市駅近くの瀬音の湯で温まり、帰路に就きました。

山麓にある、人里と書いて「へんぼり」と読む地名の由来については、山行後数日間、メール上で意見が飛び交っていて、大勢で山に行く楽しさの広がりを感じます。高低差約500m、歩行約3時間という手軽なコースですが、見所満載、充実した山歩きでした。



三頭大滝の前で 谷上さん（4期）撮影



三頭山山頂 谷上さん（4期）撮影

■ 第34回OB山行（両神山）案内

OB山行委員長 山口（18期）

岩稜コースで知られる百名山の両神山に行きます。表参道に行くコースは電車バスを利用すると前泊が必要な健脚向けであり、八丁峠から両神山の往復ではマイカーのみ許される日帰りコースですが、険しい鎖場が待ち受ける難コースです。これまでにOB山行として何度も検討されましたが、その度に保留とされてきました。

今回は岩稜のない白井差（しらいざす）新道を登ります。このコースは事前予約（20名分予約済）と入山料が必要、禁煙、ストック禁止、往復限定といつもと勝手の違う面がありますが、安心して日帰りができると思います。予約後も地主の山中さんからわざわざ電話をいただき、アカヤシオの開花期ではあるが、昨年末の芽の出方からすると今年の花は数が少ないと思う等、ご丁寧に説明いただきました。

新緑が美しいこの季節に皆さんの参加をお待ちしています。

〔日程〕 2012年5月12日（土）

〔行先〕 両神山（りょうかみさん・1,723m）

〔地図〕 昭文社 山と高原地図「雲取山・両神山」

〔集合・交通〕 西武秩父駅 8:20 集合（8:14 着の電車に乗ってください）

マイカー組：横浜5時20分頃、東京6時30分頃出発予定

注：全員がマイカー（5台程度）に分乗して登山口に向います。

〔行程〕 白井差登山口10:00～大又～ブナ平～両神山～往路を戻る16:00

（歩行時間4時間30分） 体★★ 技・危★

〔参加費〕 1,500円（入山料1,000円含む）、交通費は各自負担。

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具（手袋、帽子等）

〔温泉〕 薬師の湯（600円）。下山後ご希望の方はタオルのご用意を。

〔申し込み〕 申し込み時、西武秩父駅までの足について「車が出せる」、「横浜、東京方面からの同乗希望」「電車」等の予定も添えてお願いします。

申し込みは早いほど助かりますが、4月15日までには連絡をお願いします。

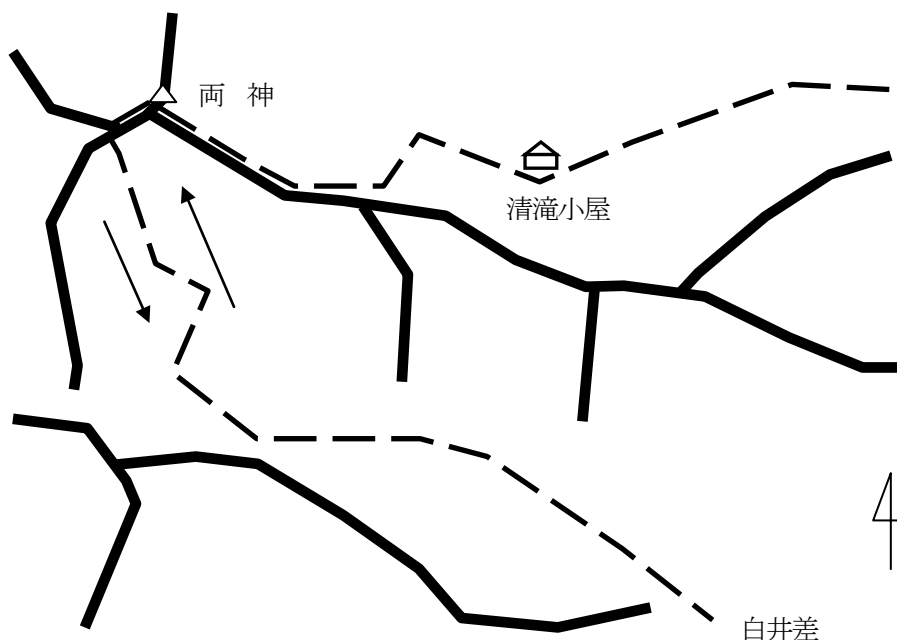
申し込み先は山行委員まで：小浜（17期）、山口（18期）、小野（34期）

メール：（電話の場合は会員名簿をご覧ください。）

偵察山行は4月7日を予定しています。

〔その他〕 ハイキング保険の加入をお勧めします。会報No.45、7頁に詳しく紹介済。

ただし1泊2日のおでかけ保険（500円）は2012年3月をもって販売終了となります。



■ 2011年シニアOB月例会報告

シニア OB 月例会委員長 塚原 (2 期)

■シニア OB 月例会

シニア OB 月例会 (2007 年まではシニア OB 月例山行と称した) は 1999 年 1 月に始まりました。2011 年で丸 13 年続いています。当初はシニアの集いの行われる月を除いて毎月 1 回、年に 11 回開催されましたが、2008 年からは年 9 回の開催となり、2011 年 12 月で通算 138 回を数えます。

■2011 年の月例会

2011 年のシニア月例会は、11 月関八州見晴台が中止になったので、8 回実施されました。1 月には大磯の湘南平・高麗山に 53 名が集まり、2 月は雪の車山でスノーシューハイクを楽しみました。

東北大震災の影響で、3 月矢倉岳を延期とし 8 月に復活開催しました。4 月破風山は、雨のため登山をあきらめ、羊山公園の芝桜、美の山公園のお花見に切り替えました。

今年は 1 月、2 月以外は天候に恵まれず、11 月関八州見晴台は実に 4 年半ぶりの雨天中止となりました。12 月の忘年登山はやっと快晴となり、箱根明星ヶ岳で年間表彰を行い 1 年を締めくくりました。

【第 130 回 湘南平・高麗山】・・・1 月 29 日、晴、53 名

- ・またまた 1 月の大量参加で 53 名も参加があり、幸先の良い 1 年のスタートとなりました。
- ・予想に反して好天になり、風もなく暖かくて快適な新年山行となりました。
- ・下山後は期ごとの新年会がそれぞれの場所で開かれました。

【第 131 回 車山スノーシューハイク】・・・2 月 19 日、晴、35 名 貸切バス

- ・2 回目のスノーシューハイクは車山と蝶々深山の登山です。
- ・車山の山頂は風が強く、寒い昼食でしたが、車山肩、蝶々深山と進むにつれ快晴になり、暖かく快適なスノーシューハイクとなりました。
- ・北アルプスから御岳、南アルプス、妙高、浅間、八ヶ岳と 360 度の展望でした。

【第 132 回 矢倉岳】・・・3 月 26 日 東日本大震災のために延期

【第 133 回 秩父・羊山公園、美の山公園】・・・4 月 23 日、小雨のち曇り、29 名 貸切バス

- ・東日本大震災の影響で、3 月の矢倉岳が延期になったため、2 ヶ月ぶりの月例会となりました。
- ・新宿を出発するときは雨は降っていて、さらに強くなるとの予報でしたので、破風山登山は中止し、羊山公園芝桜の丘、美の山公園散策に切り替えました。
- ・羊山公園芝桜の丘は 9 種 40 万株という大きな規模で、この日はまだ 7 分咲きでしたが、見事な眺めでした。美の山公園はサクラがたくさん咲いていて、思わぬお花見となりました。

【第 134 回 天城山】・・・5 月 27 日、小雨、37 名、貸切バス

- ・今回も小雨が降ったり止んだりの天気でしたが、3 月、4 月と 2 ヶ月登山していないことでもあり、アマギシャクナゲを求めて登山を決行しました。
- ・道がぬかるんでいて歩きにくかったですが、満開のトウゴクミツバツツジ、アマギシャクナゲには堪能しました。
- ・歩きにくい道に加え見事な花の撮影タイムが重なり、予定時間をかなりオーバーしてしまい、横浜駅帰着は 21 時 40 分と遅くなってしまいました。

【第 135 回 黒斑山】・・・7 月 27 日、くもり、40 名、貸切バス

- ・曇り空でガスも立ち込め展望は全くありませんでしたが、コキンレイカ (ハクサンオミナエシ)、イブキジャコウソウ、ミネウスユキソウ、ハクサンシャジン、シモツケ、オトギリソウ、シャジクソウ等々の夏の花がいっぱい咲いていました。

- ・トーミの頭では風も強く、寒さに震えながら昼食をとりました。
- ・帰路の温泉「あぐりの湯こもろ」は、浅間連峰の眺めも素晴らしく、広々としてゆっくり寛げました。

【第132回 矢倉岳】・・・8月27日、くもり、23名、3月延期分復活開催

- ・前日の大雨にもかかわらず、道がぬかるんでなくとても歩きやすかった。
- ・登りは、湿度が高く汗が出たが、下りは涼しくて快適なコースでした。
- ・展望はなかったですが、ヤマホトトギス、モミジガサ、ツルボ等の花に出会えました。

【第136回 榛名富士、烏帽子岳】・・・9月26日、くもり、37名、貸切バス

- ・生憎のくもり空で遠望はありませんでした。それでも雲の合間に赤城山、武尊山、谷川岳あたりが姿を表し、八ヶ岳、奥秩父方面もかすかに見られました。
- ・一旦麓まで下り、また同じくらいの高さの山を登ったのは初めてです。
- ・花は終わり、紅葉にはまだ早い、季節の谷間の開催でしたが、初秋の冷気を十分に感じられた森林浴でした。

【第137回 関八州見晴台】・・・11月19日 雨天中止

【第138回 明星ヶ岳】・・・12月16日、快晴、37名

- ・天気は快晴、寒いとの予報ははずれ、登りは汗ばむほど。
- ・箱根湯本からのバスは増発便を頼んでおいたので、37名全員が乗れて宮城野支所までノンストップの貸切バス同様でした。
- ・登りも下りも急ですが、落ち葉を踏みしめ、箱根の山々、丹沢の山々や相模湾を眺めながらの快適な忘年ハイキングでした。
- ・下山後今年度表彰を行いました。

参加50回賞 亀井 (5)、皆勤賞14名、企画賞 7月黒斑山 岡田 (6)



2011年度企画賞受賞月例会
11.7.27 黒斑山

■2011年実施状況

[月別実施状況]

回	月	コース	天候	幹事	参加者	摘要
第130回	1.29(土)	高麗山	晴	7.小林	53	
第131回	2.19(日)	車山スノーシュー	晴	7.小林	35	貸切バス
第133回	4.23(土)	破風山	小雨～くもり	8.田中	29	貸切バス
第134回	5.27(金)	天城山	小雨	7.服部	37	貸切バス
第135回	7.27(水)	黒斑山	くもり	6.岡田	40	貸切バス
第132回	8.27(土)	矢倉岳	くもり	6.近藤	23	
第136回	9.25(月)	榛名富士	くもり	2.吉野	37	貸切バス
第137回	11.20(土)	関八州見晴台	中止	3.腰塚	中止	
第138回	12.16(金)	明星ヶ岳	快晴	8.早坂	37	
					291	月平均 36.4

[皆勤賞]

14名

期	氏名	通算回数
2期	吉野	12回目
2期	北見	6回目
3期	腰塚	13回目
3期	塩谷	7回目
4期	郡司	6回目
5期	高須	2回目
6期	岡田	4回目
7期	井上	2回目
7期	橋本	2回目
7期	細田	初受賞
8期	早坂	3回目

[皆勤賞]

期	氏名	通算回数
8期	田中	3回目
8期	早坂	2回目
8期	溝田	初受賞

[50回参加賞]

6名

期	氏名	通算回数
5期	亀井	51
6期	近藤	51
6期	桜井	51
8期	池原	51
8期	早坂	56
8期	早坂	53

[100回参加賞]

4名

期	氏名	通算回数
2期	北見	105
3期	塩谷	106
4期	谷上	102
7期	古宮	100

[30回参加賞]

1名

期	氏名	通算回数
5期家族	高須	36

(通算回数は11年12月現在)

■通算実施状況(1999～2011年)

[参加者数]

年	実施回数	参加者	1回当たり
	回	人	人
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
04年	10	332	33.2
05年	11	367	33.4
06年	12	397	33.1
07年	11	345	31.4
08年	9	326	36.2
09年	9	367	40.8
10年	9	350	38.9
11年	8	291	36.4
計	130	4,311	33.2

[企画賞]

年	月	コース	幹事
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林
03年	5月	榛名山	2期塚原
04年	03.12月	仏果山	8期田中
04年	1月	宝登山	1期嘉納
05年	9月	箱根・仙石原	4期谷上
06年	1月	入笠山	7期小林
06年	11月	赤城・地藏岳	8期田中
07年	10月	物見山	3期腰塚
08年	10月	茶臼山	7期服部
09年	6月	荒山・鍋割山	2期吉野
09年	11月	伊豆・踊子歩道	4期郡司
10年	2月	縞枯山	7期小林
11年	7月	黒斑山	6期岡田

[参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	幹事	参加者
1	湯坂路	09年12月	7期小林	56人
2	高麗山	11年1月	7期小林	53
3	A.鎌倉天園 B.寺社巡り	06年1月	7期小林	51
4	横浜・大丸山	10年1月	6期近藤	49
5	高川山	08年12月	6期近藤	49
5	伊豆・踊子歩道	09年11月	4期郡司	48
7	霧ヶ峰	10年7月	2期吉野	48
7	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期江崎	47
9	荒山・鍋割山	09年6月	2期吉野	47
10	三原山	05年1月	4期谷上	46

[皆勤賞受賞回数ベストテン]

順位	氏名	回数
1	3.腰塚	13回
2	2.吉野	12
3	7.古宮	8
4	3.塩谷	7
5	2.北見	6
5	4.郡司	6
7	3.白井	5
7	3.吉村	5
7	7.林	5
10	6.岡田	4

■ 苗名小屋便り

小屋委員長 榎本 (12期)



今年は年が変わってから、寒波が襲来、2006年(平成18年)以来の豪雪となりました。第一回雪下ろしを1月22日(日)～23日(月)に実施、皆さん都合がつかず、参加者は、14期小口さんと34期村山さんは日帰り、榎本は1泊、計3人という少人数で行いました。取りあえず、山小屋の屋根雪は落としましたが、造林小屋は南側廂部分にかなりの雪を残して終了しました。

その後も豪雪が続き、第二回雪下ろしは2月18日(土)、19日(日)の予定でしたが、急遽、その前週の2月11日(土)に前夜発の日帰り、小口さん、18期山口さん、20期武藤さん、榎本の4人で先発隊を編成して実施しました。豪雪のため、前回から約3週間で屋根雪の積雪は2m近くあり、今回は軒の縁切りと柱掘り、造林小屋の屋根上部の雪下ろしで、本番の第三回雪下ろしに備えました。



9期鈴木会長、54期谷口副将、8期池原さん

2月18日、19日の第三回雪下ろしの参加者は、8期佐木さん、池原さん、9期鈴木会長、10期山本さん、30期笹倉さん、34期田村さん、39期後藤さんと友人、54期齋藤さん(現役主将)、谷口さん(現役副将)の計10名と、久しぶりの大人数の参加となりました。ご協力に感謝いたします。写真にて、その活躍をご覧ください。



楽しい?食後の語らい

3月17日(土)、18日(日)、[～20日(火)]には、第四回雪下ろし&春の小屋行事を予定しています。

弥生3月は春間近で残雪?に親しむ最高の季節です。前半の17、18日は、雪下ろしと屋根雪がないと出来ない小屋整備を中心に、後半の19、20日は、積雪期でしかできない小屋行事を!と思っていますので、ご期待(?)ください。笹ヶ峰・仙人池散策、メンバーと装備が揃えば三田原山へ小屋からピストンなどを今までに行ってきました。また、小屋周辺で「いたやかえで」、「しらかば」の樹液採取も試みました。

尚、昨年と同様に、センター試験休みを利用した現役の山小屋を利用したスキー合宿が、1月13日(金)、14日(土)に現役6名(53期佐藤さん、54期齋藤さん、谷口さん、軍司さん、花井さん、55期横山さん)の参加で実施されました。夜行のスキーバスで前夜発、現役のみの小屋入りで多少ラッセルに苦労したようですが、特に問題は無く冬小屋生活を満喫したようです。(P18の写真もご覧ください)

今後の山小屋行事予定

- 5月連休 小屋入りは個別!プレ小屋開け
- 6月2日(土)、3日(日) 小屋開け&山菜採り他
- 7月14日(土)～16日(月) 夏の小屋行事1
(草刈り、小屋山行・・・)
- 8月11日(土)、12日(日) (13、14・・・)
夏の小屋行事2(小屋整備他)
- 9月の3連休15日(土)～17日(月)
必要に応じて計画!
- 10月6日(土)～8日(月) 秋の小屋行事
(きのこ採り、小屋山行・周辺散策&小屋整備)
- 11月3日(土)～4日(日) 小屋閉め

■ 期別便り（21期）

白木（21期）

期別便りを書くにあたり、ここ最近は同期単独で会うことが全くなくなったことにふと気づきました。以前はアメリカだのフランスだのを転々と彷徨っていた村松君が帰国する度に同期会をやっていたのですが、最近ほとんどが合同飲み会になっております。うーんと理由を考えたのですが、リーダーシップの非常に強い20期の先輩方と、（とにかくうるさい）22期にはさまれて、非常に地味な存在として、中心というよりは重心という位置づけになっている気がします（自分たちの存在というより、他期の存在の中で自分たちの位置を決めるといった感じ）。

まあそんな感じの21期ですが、ここ最近のエピソードを紹介致します。

【久々の「単独」同期会 － 河辺（山中）さんの個展にて】

すでにメルマガ等でも配信されておりますが、一昨年5月に、河辺さんが新鋭アーティストとして個展を開催致しました。その際に久々に21期の全女性陣がかけつけ、同期14名中 女性4名+男性5名となり、めでたく同期会開催の運びとなりました。地味な存在とはいえ同期だけになれば、そこはそこ、やはり各自の存在感が示されて、懐かしさもひとしおです。

ワングル時代の記憶力は抜群の我が殿、横溝君が昔話に花をさかせれば、ガハハと笑う村松君、するどく毒舌を吐く長尾（山室）さん、話のボケが相変わらずの河辺（山中）さん、「でもさ、でもさ」となつかしい口調の坂元（渡部）さん、とにかく酒を飲んで酔っ払うことに余念のない藤倉君、何をやってもかかったそうな山崎君、同期で唯一人正しい山ガールとして君臨する村石（椋代）さん、皆さんそれぞれのキャラが完全復活しておりました。

21期の皆さん、ここ1年同期の飲み会を開催しておりませんが、多分私が企画しないと誰も企画しないと思いますので、近々連絡しますね。その時は参加よろしくお願ひしますm(_)_m

※前回不参加の鳥井君、名古屋にいる籠橋君、ロンドンからアフリカを転々とする村松君はともかくとして、連絡してもなしのつぶての溝畑君、岩崎（社長）君、山本（関西）君、君たち三人には往復ハガキを出しますので、欠席する場合でもちゃんと近況報告をするように！



【丹沢オススメの場所】

私事ですが、最近家内との山登りを始めました。もっぱら丹沢辺りに行くことが多いのですが、そこでのオススメの場所を紹介します。塔ノ岳からヤビツ峠に下り、バスに乗る人を横目で見ながら柏木林道を養毛に向かいます。養毛のバス亭の手前に鱒の養殖所が左手にあります、その少し手前の右側にある「養毛茶屋」が私のオススメの場所です。

URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~minoge/> TEL: 0463-82-2261（大津さん）

ここでは、通常メニュー以外におかみさん（大津さん）の隠しメニューが数多く用意されており、実においしいものが多くあります。猪鍋も美味しいですが、山菜料理は絶品です。隠しメニューを召し上がる際には前日に電話していただき、「白木から聞いた横浜国立大学のワングルですが」と言っておけばいいかと思ひます。是非一度丹沢の帰りにお試しになって下さい。

■ 現役部員の活動紹介

主将 齊藤 (54 期)

54 期主将を務めることになりました、教育人間科学部学校教育課程の齊藤です。まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。

高校生の時、山岳部に入り登山を始めました。地元は福島だったので、磐梯山や安達太良山には何度も登っていました。当時の活動内容は4~6人用のテントを持っての2~3日の山行がほとんどで、5月に残雪の低山を登ったことはありますが、雪山やクライミングの経験はありません。体力的にはそこまでハードではなく、現在のYVVの活動に近い活動をしていたように思います。

さて、それでは今の現役の説明に入ります。今、在籍し、活動を行っている現役部員は54期が7名、55期が1名という状況です。しかし、ほとんどがアルバイトやかけもちのサークル活動などで忙しく、一度に山へ行くのは4、5人程しかおりません。ワングルの過去の記録を見てみると、数十人での山行を行ったことがありますが、それに比べると小規模でさみしいように思います。

では、その小規模な部員でどのような活動を行っているのかと言いますと、この原稿を書いている今現在は春合宿に屋久島へ行く計画を立てています。期間は3月12日~16日の3泊4日ですが、屋久島での山行は屋久杉を見て帰ってくるだけの簡単なものにし、理系の学生が多いことの影響か、隣の種子島へ寄り、JAXA 宇宙センター見学を予定しています。参加人数は5人という小規模だからこそ、山行計画、宿泊先探し、交通手段検索、コースガイド作成、屋久杉と宇宙センターの情報収集と、全員で役割を分担し協力して、立派な登山計画書を作成することができました。このように、これからの山行は、ただSLや上級生に連れて行ってもらい後ろを歩くだけの登山にならないよう、事前準備を皆で協力しながらしっかりと進めていき、全員が自ら積極的に参加していく山行ができるようにしていこうと考えています。

春合宿と並行して、現在、新歓の準備も進めているのですが、現在の1年生と3年生には女性がいますので、この機を逃さずに次の新入生は女性も積極的に勧誘し、ワングル部内における男女比の偏りをなくしていこうと意気込んでいます。

また、ここ最近のワングルの活動の傾向としては苗名小屋での活動が多くなったと思います。54期の僕が入学した2010年からだんだんと快適さを増していった苗名小屋、そこへOBの方々の車に乗せて行ってもらい、ワングルの活動が制限される冬を利用して年に何度か足を運んでいます。毎回、行くたびに複雑な小屋の利用



法をいねいに教えてもらっていた甲斐あって、2012年1月には現役だけで小屋スキーに行きました。OBさんのいない小屋利用は多少の不安もありましたが、最終的に無事快適に楽しく使わせていただきました。

次の夏山は2年前に完走できなかった大キレットに再挑戦か、南アルプスの山並みを楽しむか、行きたい所はたくさんあり過ぎて迷っていますが、ワングル部員皆で仲良く話し合っ決めていきたいと思っています。

2012年1月 苗名小屋入り

■ 会報 50 号記念特集 写真で見るワンゲル今昔 その2

◇◇◇◇ 2000年代～2010年代 ◇◇◇◇



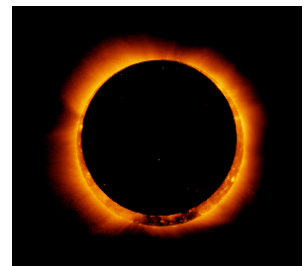
「写真で見るワンゲル今昔」は如何だったでしょうか。掲載したい写真はまだまだありますが、紙面の関係で今回はここまでです。面白い写真が沢山ありますので、また、別の機会にご紹介したいと思います。

■ 編集委員会から

編集委員長 石垣 (20期)

編集委員長を引き受けてから2号目が第50号の記念特集号にあたるという幸運(?)に恵まれ、会報の歴史による責任の重さをひしひしと感じています。一時はどうなることかと思いましたが、多数の方々のご協力により発行予定の4月1日に何とか間に合い、OB会員の皆様のお手元に会報第50号をお届けすることができました。ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。

さて、今年5月21日は月と重なった太陽がリング状に見える「金環日食」が起こるそうです。今回の金環日食は九州南部から関東近辺まで観測でき、日本の広い地域で観測できるのは173年ぶりだそうです。ちなみに小生が住んでいます千葉県はリングが最も美しく見える「中心食線」の対象地域で、千葉県内は午前6時過ぎから日食が始まり、徐々に欠けて午前7時半頃に金環日食となるそうです。自然を愛するワンゲルの皆様、晴れを祈りながら早起きして是非金環日食を見ましょう(小生はその時間は通勤電車の中、しかも地下鉄・・・トホホ)。





やはり富士山が一番
2011年5月 鈴木氏(9)撮影

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。
編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。
自由投稿コーナーの原稿、写真、スケッチなどどしどしお寄せ下さい。

宛先 石垣(20期)
成島(22期)

YWVOB 会 会報第 50 号

発 行 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日 : 2012 年 4 月 1 日
発 行 責 任 者 : 鈴木(9)
編 集 責 任 者 : 編集委員長 石垣(20)
編 集 : 編 集 委 員 成島(22)
印 刷 所 : 株式会社 カワチャ・プリント (東京都港区新橋 5-31-7)